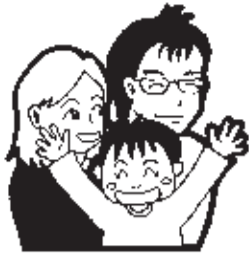


平成9年4月25日 第3種郵便物認可

2019年 新春号
第46号

みらい川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
川崎市役所第二庁舎内
TEL.044-200-3355
FAX.044-245-4135



みらい川崎市議会議員団 川崎市議会議員 **立憲民主党**

おだ かつひさ PRESS

〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX: 044-856-5456
E-mail: oda@odakatsu.com
URL: http://odakatsu.com/



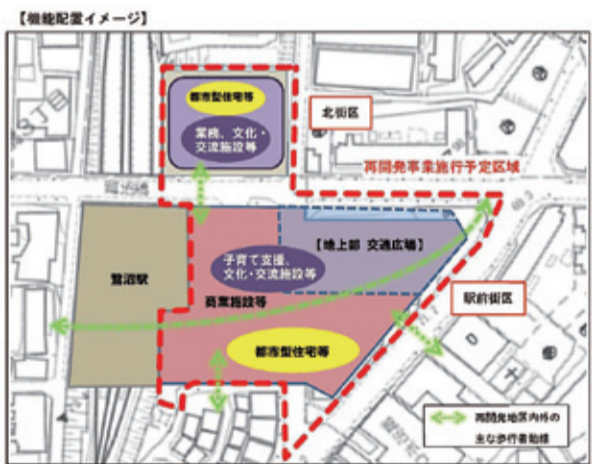
具体的な提言
確実な実行

この「次世代郊外まちづくり」の機会を逃すな — 鷺沼駅周辺再整備を、「官」と「民」の連携で — 「閑静な住宅地」のブランドだけでは、これからの生活は成り立ちません 宮前区をだれもが「引っ越して来たい」「住み続けたい」と感じるまちに

いよいよ「新田園都市」の環境デザインが見えてきました。

— 昨年8月に「鷺沼駅前地区再開発準備組合」が発足し、事業が具体的に動き出しました。今回の再開発事業は、東急電鉄など民間事業者主体の事業ですが、交通アクセスの改善をはじめとする市民生活の利便性の向上が基本のコンセプトとなっています。

川崎市の総合計画では、このエリアをあらためて「地域生活拠点」とし、鷺沼駅を区内の「主要な交通結節駅」と位置づけました。鷺沼駅へは、宮前区全体から、路線バスなどのアクセス環境が整うことが計画の大前提となります。区民がアクセスしやすくなる交通結節駅前に公共機能を整備することは、無理のない自然な議論と考えます。近い将来、宮前区民の生活を支える、公共機能の再編成を含め、街を支えていくさまざまな機能を駅前に整備される期待が大きくふくらみます。



対象エリアに「北街区」が追加されました

少子高齢社会を展望するなかで「持続可能なまちづくり」を実現するための「地域創生」への構想力が地元市民と自治体に求められています。川崎市が提案する「持続可能なまちづくり」と東急電鉄などの民間事業者の提案する「次世代郊外まちづくり」を絶好の機会にして、その調整役をこれからはたしていきたいと考えています。

「多世代」「多機能」「再投資」「生産」が「持続可能なまちづくり」のキーワード

人は家にも住みますが、街にも住むのです。「閑静な住宅地」というブランドだけではこれ

からの生活は成り立ちません。これからは街に多様な「居場所」と「仕掛け」がないと衰退の一途をたどることになります。多様な「居場所」を「生活の薬箱」と呼ぶ専門家もいるくらいです。

田園都市線沿線のまちづくりに深く関わる、ある都市プランナーは「高齢者だけしか住んでいない街ではなく、いつまでも一定のバランスで幅広い世代の方が住み続けていること。住まう、だけの街ではなく、多彩な機能がコンパクトに備わっていること。民間企業からそっぽを向かれて放置されている街ではなく、民間企業が投資をして採算が取れること。住民が地元で消費するだけでなく、小さいながら地域の経済が回っていること」を「持続可能なまちづくり」の4つのコンセプトとして述べています。消費だけでなく雇用の創出も重要なポイントです。まさに鷺沼駅前再開発の方向性に即します。

具体的に再開発後の将来像を想像してみると — たとえば

すでに、鷺沼駅の隣接地域に商業や都市型住宅、文化・交流機能、子育て支援等の機能の整備方針が準備組合から示されています。これに公共機能等を加味しての近未来の市民生活を想像してみたいと思います。

(例1) 育休中のAさんは、子育て支援センターで知り合ったママ友とバスに乗って鷺沼駅に集まります。駅に整備された「一時あずかり施設」に子どもを預け、「駅前広場」に用意されたオープンスペースで飲食をしながら、意見交換や雑談を行いました。ちょっとした息抜きの時間となりました。

そのあと、隣の「図書館」に行き、子どもに絵本の読み聞かせを、ついでに、「保健福祉センター(区役所)」に行き、乳幼児検診について相談しました。

(例2) 本格的な超高齢社会をみこして、川崎市は高齢者の「介護予防」に力をいれるようになりました。Bさんは、鷺沼駅に開業した「介護予防事業所」で約1時間足腰の機能訓練を行いました。そのあと「図書館」で好きな旅行の本をみていたら、老人会の仲間と遭遇。図書館内のカフェに移動して老人クラブの次回バス旅行の話題に花が咲きました。

(例3) Cさんは、シングルマザーで障害のあるこどもと生活をしています。

会社に通うのは週に一日。あとは在宅で仕事の可能な今の会社に転職しました。特別支援学校の送り迎えやこどもの時間を大切にしたいと考えたからです。

駅前に開業した「放課後等デイサービス」にこどもをおくり、その足で駅上の「レンタルオフィス」に向かいました。パソコンを持ち込んで仕事ができるスペースが駅上に用意されたので本当に便利になりました。今週おこなうプレゼンテーションの資料をつくり、夜はこどもの時間を過ごしたいと思います。

(例4) Dさんは熱心なミュージカルのファンです。今日は劇団〇〇の話題の公演の日。新しく整備された「市民館ホール」は舞台装置が自慢。

国内外から著名なアーティストが来訪するようになり、駅前というアクセスの利便性から区内はもとより、遠方からもミュージカルファンが鷺沼駅に集まるようになりました。駅前広場のカフェで舞台公演のあとの会食は、今では世代を超えた楽しみに。「音楽とアートのまち・かわさき」を代表するエリアとなりました。

人は家にも住むが、街にも住む
「次世代郊外まちづくり」の新田園都市へ

地域包括ケアシステムが目指す「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが可能なまち」との理念も、「誰もが引っ越して来たい、住み続けたいと感じるまち」の理念も、「持続可能なまち」との方向性では軌を一にするものです。鷺沼駅前再開発事業は、市民との協働作業で宮前区の将来像を創りあげる絶好のチャンスなのです。



アンケートの回答に多くのご協力をいただきました